

令和3(2021)年度 大学・地域パートナーシップ研究事業  
京田辺市×同志社 小学校における国際理解教育 報告書



# テーマ「絶滅危惧通信を作って動物の声を伝えよう」 (SDGs×国際理解教育)

## 参加者

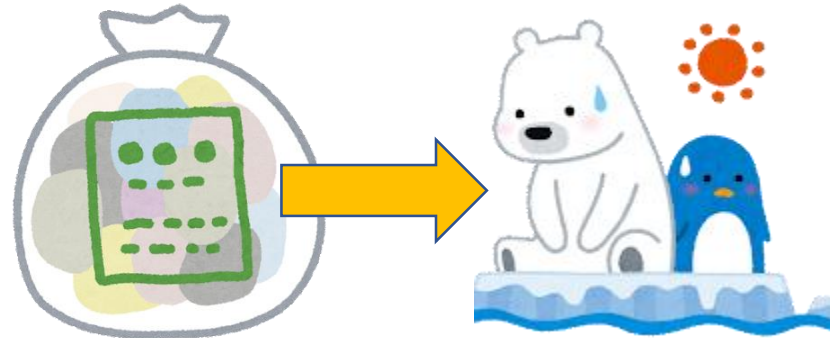
京田辺市立松井ヶ丘小学校 5年生4クラス120人

同志社大学グローバルコミュニケーション学部(外国人留学生)4人

同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 藤原 孝章 特任教授＋藤原ゼミ7人  
(猪瀬友香、北本彩桂、田口瑞彩、武内美紅、西谷和紗、松村夏帆、吉岡瑞貴)



# はじめに ～プラごみから絶滅危惧種へ～



## 授業テーマ

令和2年度「プラスチックごみについて考えよう」  
(家庭科／社会科×総合×国際理解教育)



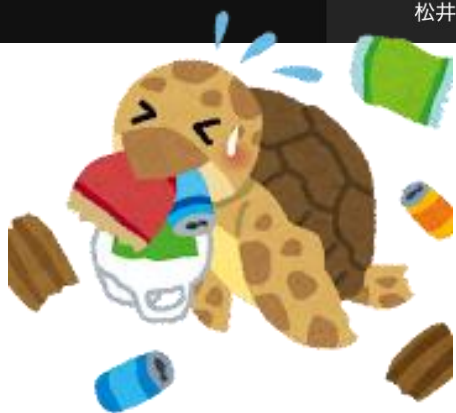
令和3年度「絶滅危惧通信を作って動物の声を伝えよう」  
(SDGs×総合×国際理解教育)

令和2年度は、藤原ゼミ（先輩）が田辺東小学校において、プラスチックゴミの廃棄が引き起こす海の汚染や、地球温暖化による環境の変化など「つくる責任・つかう責任」（Goal 12）を中心に、授業を計画して取り組みました。

それらを踏まえ、令和3年度私たちは、同じような要因から海や陸の生き物の多様性が脅かされ、絶滅の危機に瀕する生物、絶滅危惧種（Goal 13,14,15）にテーマを移しました。声に出すことのできない生き物たちの訴えについて、具体的にあげてみるとどうなるか、児童と一緒に考えました。

## 授業の構想・デザインの話し合い

授業に協力してくれる外国人留学生との打ち合わせや、授業で使用する教材作成に取り組みました。  
また、コロナ禍のため、松井ヶ丘小学校教務主任、第5学年の先生方、京田辺市市民参画課とリモートで打合せを行いました。





単元計画及び本時案

- 1、単元テーマ：絶滅危惧通信を作って動物の声を伝えよう
- 2、単元の目標：SDGs や動物の訴えを知り、人間が絶滅の原因になることを理解し、自分たちに出来ることを伝え合い、自分ごととして行動できるようにする。
- <知識・技能>
- ・SDGs と絶滅の危機にある動物について知る。
  - ・ICT のスキルを高める。
- <思考力・判断力・表現力>
- ・動物が絶滅の危機にある原因を考える。
  - ・動物の絶滅を自分事として考える。
- <学びに向かう力・人間性>
- ・絶滅から救うためにできることを自分ごととして捉え、行動しようとする。
- 3、授業評価  
事前と事後のアンケートを取る
- 4、単元計画

	○内容	備考
第1時	【SDGs を知ろう】 ねらい：SDGs について知る  ○自己紹介動画 ○SDGs クイズ →SDGs についての PowerPoint を使用  ○取り組みを紹介(日本+留学生の母国) 動画とパワーポイント	★SDGs 全体の知識を深めた上で、世界の取り組みなどを知り、動物の焦点を絞る。  自己紹介動画：資料①参照 SDGs クイズ：資料②参照  *取り組み：資料③参照
第2時	【内容を深めよう】 ねらい：人間が原因であることを知る  ○担当の動物について知る。 ・絶滅危惧動物プロフィール帳（動物図鑑） (シロクマ、ウミガメ、ペンギン、アザラシ、キリン、トラ、オランウータン、レッサーパンダ) を作成する。 →内容は、生息地・分類・食べ物、絶滅の理由についてテンプレートに従って大学生がオリジナルで作成した図鑑を読み取って作成する。	★先生方で動物を振り分けてもらう。  動物図鑑：資料④参照 絶滅危惧動物プロフィール帳：資料⑤参照

	○絶滅の理由を調べる。 ・絶滅の理由の原因を調べる（WWF 等） (例トラ：なぜトラが絶滅するのか ⇒人間によって森林破壊行われていて、すみかが減少しているから。)  →ロイロのフィッシュボーンを用いる        〈時間が余った場合〉 グループごとに調べた動物について発表する。 →動物のプロフィールと絶滅の原因について分かったことの共有をする。	★調べるサイトは WWF 等を使用する。  調べ学習のための URL： 資料⑥参照  ★ロイロノートのフィッシュボーンを使って調べた内容をまとめる。 フィッシュボーン（例）： 資料⑦参照  ★絶滅の理由に人間が関わっていることに気づけるようにする。
第3時	【これまでの学びをまとめよう】 ねらい：声をだせない動物に代わって、人間に訴えよう。  ○前時の復習をする。 ○グループで絶滅危惧種（シロクマ、ウミガメ、ペンギン、アザラシ、キリン、トラ、オランウータン、レッサーパンダ）の訴えを書いたブラカードを作成する。  ○ブラカードに書いた内容の伝え方を説明する。 ○ブラカードの内容を伝え合う。 →インタビューを行い、他グループの絶滅危惧種の訴えや理由を聞く。      ○まとめ+通信作成のお知らせをする。 ○各グループで写真撮影をする。	★ブラカードは大学側で用意する画用紙を用いる。 ブラカード（例）：資料⑧参照  ★発表の際に、どの絶滅危惧種を担当しているのかが分かるように名札をつける。 →名札は大学生で作成。 名札：資料⑨参照 伝え方：資料⑩ ★発表の見本を留学生と一緒に見せる。  ★写真撮影では、児童が後ろを向いてブラカードを持っている姿を撮影する。 *通信用写真：資料⑪参照
+α	絶滅危惧種通信作成、配布	★大学生で絶滅危惧種通信を作成する。 *絶滅危惧通信：資料⑫参照

授業単元計画  
（3時間）の作成

コロナの感染拡大のため、授業の単元計画を全4時間から全3時間に縮小しました。  
また、授業1、2時間目は第5学年の先生方が実施し、私たちは最後の3時間目のみ授業を実施しました。

# 【1 時間目】 松井ヶ丘小学校第 5 学年の先生方による授業



1 時間目の授業教材として、SDGs クイズや日本のSDGs取り組み紹介、私たちの自己紹介ビデオを準備しました。

また、外国人留学生 4 名は、出身国でのSDGsの取り組みを紹介する動画を作成しました。

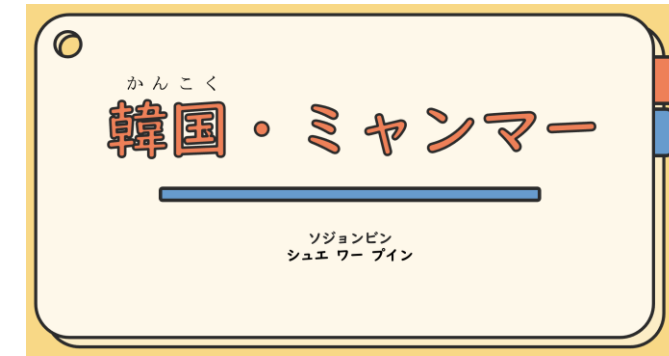
コロナの感染対策のため、私たちは廊下から授業を見学しました。

## 児童のコメント

わかったこと・もうと知りたいこと

- ・ いろんな取り組みがされていると分かりました
- ・ 世界で困っている人は約 7 億人いることが分かりました

授業に協力してくれた外国人留学生は、同志社大学グローバルコミュニケーション学部の 4 名（以下のとおり）です。シュエ・ワーピンさん（ミャンマー）、ソ・ジョンビンさん（韓国）、李婭萌さん（リ・アモウ、中国）、傅榆云さん（フ・ユウン、中国）



## 中国のSDGSの取り組み





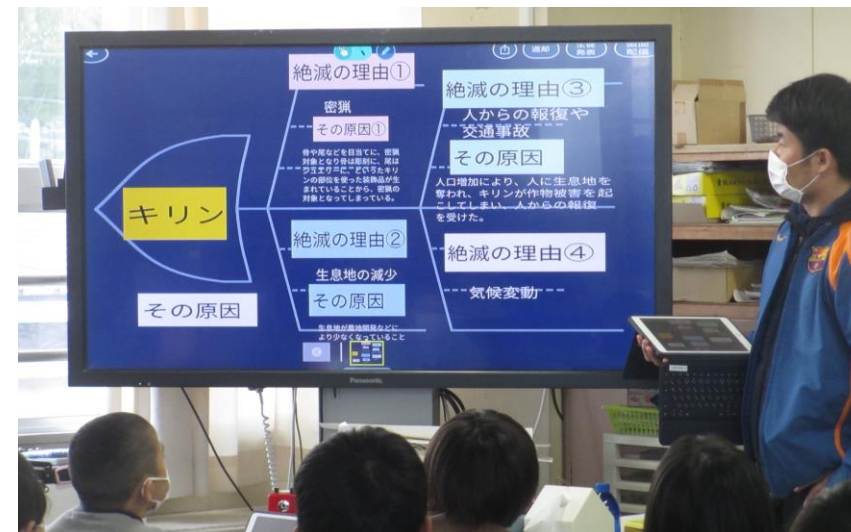
## 【2時間目】松井ヶ丘小学校第5学年の先生方による授業



授業教材として、8つの動物（ペンギン、ホッキョクグマ、アザラシ、ウミガメ、キリン、トラ、オランウータン、レッサーパンダ）の生態や環境の変化などを記した『動物図鑑』を作成しました。

また、児童がタブレット端末を使って検索できるウェブサイトについても事前に整理・準備しました。

児童は、これらを参考にして、タブレット端末でロイロノートのシンキングツール（フィッシュボーン）を使い、動物の絶滅危機の現状と原因について調べ、発表しました。



### 児童のコメント

今日、動物の絶滅は、数が少なくなっているからという理由もあるけど、ほぼすべては人間の仕業だということが分かった。自分が見たことのある動物が絶滅危惧種だったことにびっくりした。人間が住みやすくなるに連れて動物に迷惑になることが分かった。

### シロクマ

シロクマは、陸に住む動物の中で、最大の肉食動物ともいわれ、ホッキョクグマともよばれています。陸での狩りだけでなく、泳ぐこともとても得意な動物です。

1年のほとんどを氷の上ですごしていますが、地球温暖化のせいで氷がどんどん溶け、住む場所が少なくなり、現在は絶滅の危機にひんしています。



こんにちは！

シロクマは、クマ科クマ属の肉食ほにゅう類です。体のわりに頭が小さく、前足が大きいので、泳ぎが得意です。真っ白の毛が特徴で、足の裏にも毛が生えていて、陸・氷の上でも生活できます。



寒い冬も平気だよ！

シロクマは冬が近づくと、春まで冬眠をします。しかし、シロクマは冬眠をしません。シロクマは、冬眠をする時期でも、自分の体温を下げ、体のエネルギーを節約して、動き回ることができます。1年中狩りができる動物です。

最近はおものが減っているんだ



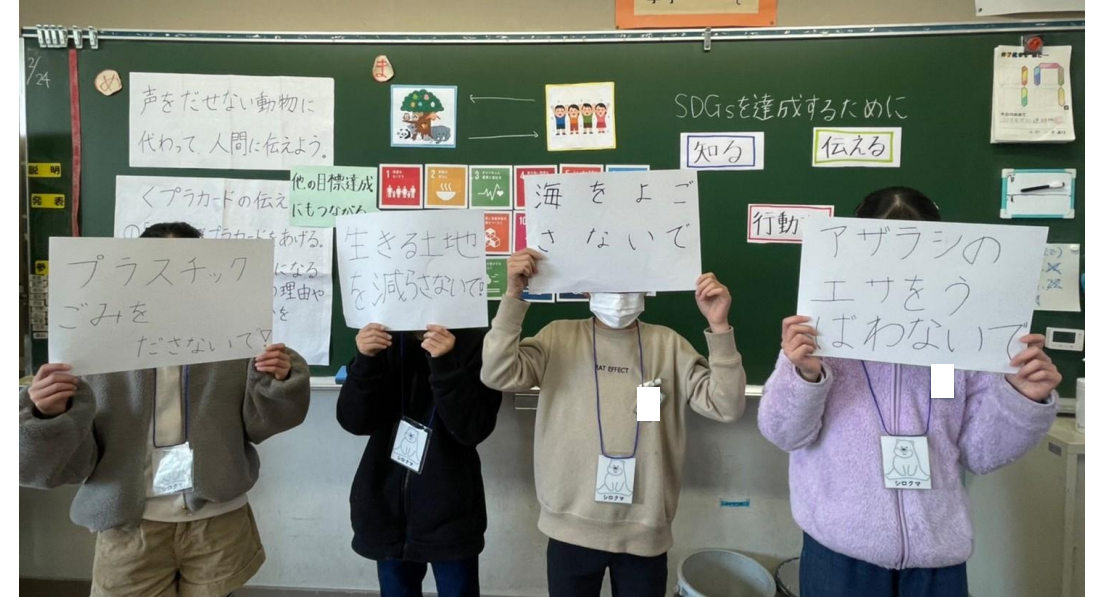
シロクマは、アザラシ・魚・セイウチを食べ生活しています。狩りをするときは、海にもぐって、えものがある氷のはしまで近づき、持ち前の力とスピードで素早くつかまえます。



シロクマは、カナダやロシアなどの1年中氷でおおわれている北極でくらしています。11月から7月のほとんどを氷の上ですごしています。



## 【3時間目】藤原ゼミ学生と外国人留学生による出前授業（本番）



授業資料として「動物の名札」や声を出せない動物たちに代わって児童が声をあげる「プラカード」の見本を準備しました。

児童は1、2時間目の授業で学んだことをもとに、グループごとに8種類の動物に応じたプラカードを作り、クラスで共有・交流しました。



# 絶滅危惧通信

3時間の授業プラスαとして、児童が学級や家庭でもSDGs授業や絶滅危惧種について話し合いができるように学級通信『絶滅危惧通信』を作成し、5年生に配布しました。

**No.1** ぜつめつ き ぐ つうしん 松井ヶ丘小学校5年3組  
SDGs×総合的な学習の時間

アザラシ・ウミガメ チーム

氷が減ってきているため、子育てができず、絶滅してしまう!!

アザラシ



分類: アザラシ科の海に生息する哺乳類

生息地: 北極、地中海、北海道南極、

食べ物: ニシン、カレイなどの魚

卵を産むための砂浜が減少して、困っています!!

ウミガメ



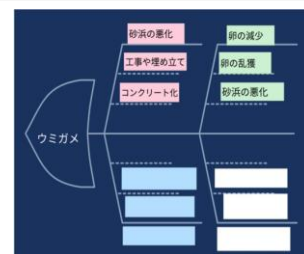
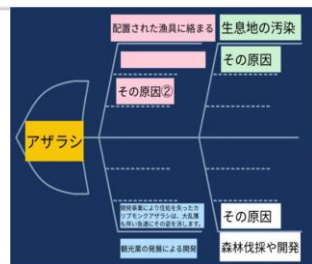
分類: カメ目ウミガメ上科

生息地: 熱帯・亜熱帯

食べ物: アカウミガメ〜エビ・カニ  
オサガメ〜クラゲ類

松井ヶ丘小学校の5年生のみなさん!  
お元気ですか? 先日は、SDGsの授業に参加してくれてありがとう。みんなが一生けん命勉強してくれたので、私たちはとってもうれしかったです。  
授業の最後に言っていた【絶滅危惧通信】が完成しました。これを使って、SDGsの授業で勉強したことを、お家の人やお友達に教えてあげてね。  
またみんなに会える日を楽しみにしています。

同志社女子大学の学生より





# 授業後アンケート ～児童が授業で学んだこと～

## ①SDGsについて知った！

35／120人（およそ4人に1人）

## ②絶滅危惧種と人間の行動の関連について 気が付いた！

55／120人（およそ2人に1人）

## ③行動の変容(〇〇だから〇〇しようと思っ た！)

44／120人（およそ3人に1人）



## ①SDGsについて知った

- ・私は、SDGsはこれからの未来で生きる人たちや生き物が毎日安心して暮らせるようにする目標だと思いました。だから、「今が良かったら良い」と思わないようにしようと思いました。
- ・人間は他の生き物を犠牲にして生きているからあまり良くないけど、より良い世界にもなるように頑張っているんだと知った。でも、出来るだけ生き物は殺したくないと思った。

## ②絶滅危惧種と人間の行動の関連

- ・SDGsをみんながやることで海の汚染や自然破壊、動物の乱獲が少しでも減って絶滅する動物や絶滅寸前の動物を救えると分かりました。
- ・初めは、自分は何も環境を壊していないと思っていたけど、授業を受けた後、よく考えてみたら少し心当たりがあるかもしれないと思うようになった。たくさんの動物が絶滅危惧種になっていることを知ったので、これから私に出来ることを出来るだけ実行していきたいと思った。

## ③行動の変容

地球には、今にも絶滅してしまいそうな動物がたくさんいることがわかりました。そして、これからは、そんな動物を増やさないために、水や電気を節約したり、近場は自転車で行くなどの、環境にいいことをしていきたいです。

# おわりに ～プロジェクトをふりかえって～

## 学生7名、留学生4名

- ・全員が出前授業に取り組んで良かったと回答。
- ・その理由は、学生たちは、教育実習以外に教壇に立てたこと、留学生やゼミの仲間と単元づくりや授業資料の作成に取り組めたことをあげ、留学生は日本の小学校の授業に参加できた貴重な経験や、大人ではなく子どもに対するSDGsについて、同志社女子大学の学生と議論できたことをあげている。（同志社大学グローバルコミュニケーション学部留学生レポート

[https://globalcommunications.doshisha.ac.jp/to\\_gc/report/](https://globalcommunications.doshisha.ac.jp/to_gc/report/))

## 学生の感想

- ・コロナ禍で小学校の授業見学が限られ、子どもたちの学習の様子を想定することが困難な中、学習テーマのねらいや活動のまとめをどうしていくか、絶滅危惧種について身近に感じてもらうために工夫を凝らした。
- ・コロナにより、4時間の授業単元計画が急きょ3時間になり、状況に応じた力を身につけることができた。また、3時間の本時の授業案はもとより、担任の先生方が授業をするための教材や資料、動画などを全て作成することができた。
- ・実際の本番の授業では、子どもたちの予想を超えたSDGs学習への興味関心に支えられながら、プラカードの作成と教室内での共有、交流の授業を行うことができた。

## 松井ヶ丘小学校第5学年の先生方の感想

- ・身近な動物があげられていたのでより興味を持ち意欲的に取り組めた。
- ・とてもわかりやすく名札などの準備をされていて楽しく取り組むことができた。
- ・動物の声をプラカードにするという発想が面白かった。

## 藤原孝章 特任教授のコメント

- ・昨年に比べて、状況の変化が激しく学生たちの臨機応変の力が発揮できた。教材づくりや授業のデザインでも優れたものとなった。課題としては、子どもたちの学びの確かめをもう少し追求してもよかった。
- ・松井ヶ丘小学校の校長先生、第5学年の先生方にこのような機会を提供していただいたことに感謝します。

